

平成30年度 事業報告書
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人スバ・ランカ協会

1 事業実施の方針

特定非営利活動法人スバ・ランカ協会は、スリランカと日本両国の相互理解を促すこと、スリランカ人の抱える問題の改善・解決を図ることを目的に、下記の事業を実施する。具体的には、本法人の定款第5条第1項の事業として、スリランカよろず相談窓口事業、スリランカにおける地域振興と環境保全を図る事業、スリランカの子どもの対象とした教育振興事業、スリランカの物産の紹介と普及事業を実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア> スリランカよろず相談窓口事業

(ア)	事業内容
①	スリランカ ジャパンエキスポ (http://www.jx-premier.jp/sp/index.html) における日本の美容ワークショップにスリランカ在住の日本人女性に参加を呼び掛けてほしいとの依頼があり、JICA海外青年協力隊やシニアボランティアの方々に電話し参加してくれるように頼んだ。
②	あいちコトノハ学院 (小牧市大山寺) がスリランカから留学生を呼びたいがどうすればよいかとの相談があった。そこでスリランカの真珠日本語センターと日の出日本語教育センターを紹介した。
③	2019年度にJICA海外青年協力隊員としてスリランカに赴く金田裕介君からシンハラ語を教えてほしいとの依頼があった。そこで2018年7月まで同じ海外青年協力隊員としてスリランカに赴任していた福井麻耶さんを紹介した。金田君は日本福祉大学の卒業生であり、会員の近藤譲治氏が平成26年度に企画した「大学生ボランティアツアー」に参加し、ワラカーポラ郡の幼稚園におけるトイレ建設に加わり、労力奉仕をしてくれた。今回は自ら志願してスリランカに行くことになった。不思議なそして喜ばしい縁である。
④	シンハラ人の留学生から修士論文を見てほしいとの依頼があり、日本語の添削を中心に指導した。
⑤	スリランカにおいて堆肥工場の建設を目指しているA氏がスリランカに行くので関係者との連絡調整をしてほしいとの依頼があり、スバ・ランカ協会の現地協働者チャミット氏および協会スリランカ事務所のボランティアスタッフのマーダワ氏と電話で話し、A氏の計画が円滑に進むように依頼した。
⑥	各務原の自動車部品会社がスリランカから人材を得たいとの依頼があり、スリランカの送り出し機関のTrans Asian (Good Way Saport 日本語学院)と日本の受入れ機関のJSLとをつなぐ仲介をした。
(イ)	実施日時 ① 平成30年4月21日～23日、 ②平成30年5月と9月 ③平成30年9月～平成31年3月 ④平成31年1月10日～20日 ⑤平成31年1月 ⑥平成31年3月
(ウ)	実施場所 ① コロンボ市 ②小牧市 ③名古屋市 ④名古屋市 ⑤ケーゴール県ワラカーポラ郡 ⑥各務原市
(エ)	従事者の人数 ①1名 (会長大岩) ②2名 (スリランカ事務所ボランティアスタッフ・マーダワ氏及び会長大岩) ③会長大岩、講師1名 ④会長大岩 ⑤3名 (マーダワ氏とチャミット氏及び会長大岩)
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 ① 主催者1名および不特定多数のスリランカ在住日本人女性及びスリランカ人女性 ②1名 (上記学院院長) ③1名 (K君) ④1名 (中部大学大学院留学生) ⑤1名 (A氏) ⑥1名 (上記自動車会社社長)
(カ)	費用 ①～⑥ 2,400円 内訳) 通信費 2,400円
(キ)	収益 ①～⑥ 0円

イ> スリランカにおける地域振興と環境保全を図る事業

(ア)	事業内容
①	環境保全を見ずえたスバ・ランカ農園のカシューナッツ栽培とヤシ栽培 カシューナッツ栽培については今年度も天候不順に悩まされ例年並みの収穫量60キロを確保できなかった。昨年の24キロを下回り21キロにとどまった。ヤシ栽培は順調で800個ほどの実がなり始めた。しかし、10月ころからサルや猿の群れがヤシ園に侵入し、820個の若い実の内700個ほど食い荒らした。猿は屋間、人がいないヤシ農園を狙って侵入する。逆に、猿は誰かがいれば来ないということである。今までは、管理者のチャンダヤが作業するときだけ農園に居て問題はなかったが、今は、それでは猿害を防げない。そこで、猿が来る屋間に常駐し、作業するI.P.ジャヤセーナ氏 (62歳) を新たに雇い、休憩小屋を建てた。11月のことである。その結果、猿の群れは来なくなり、被害は食い止められた。今回が初めての収穫であったが、猿の来襲により120個ほどに止まった。1個40ルピー、4,800Rsの収益が得られた。わずかであるが、初の収益である。猿害がなければ多く得られた。なお、ヤシの間に換金作物 (落花生、バナナなど) を植えて売り、電気代に充てている。
②	堆肥の増産に向けた『ジャヤマガ青年農業者クラブ』への支援 現地の協力者であるチャミットさんが顧問を務める『ジャヤマガ青年農業者クラブ』に対して、堆肥を増産するために、草刈り機3台と小型の簡易ふるい機を提供した。本来なら大型のふるい機が必要であったが、予算が不足したため今回の支援とする。
③	ワラカーポラ郡のごみ問題を解決するための第一歩としての生ごみの堆肥化 ワラカーポラ郡では町のごみが村域の山に放棄されゴミ山ができていく。これを解決するためにまずはごみの70%を占める生ごみを分別して堆肥化し、ごみの減量化を実現することが必要であると判断し、三重県津市の堆肥・育土研究所代表の橋本力男氏と面談し、スリランカにおいて生ごみの堆肥化を指導してくれるように依頼し、了解を得た。そのうえで、橋本氏のスリランカへの招へい、生ごみの分別の試験的实施、生ごみ堆肥化工場の建設を目的とした2019年度事業を計画立案した。

(イ)	実施日時 ① 平成30年4月～平成31年3月 ② 平成30年9月 ③ 平成30年6月～10月
(ウ)	実施場所 ① プッタラマ市 第10カヌワ ② ケーゴール県ガラピタマダ郡 ③ ケーゴール県ガラピタマダ郡
(エ)	従事者の人数 ① 8名 (チャミット氏、臨時雇用4名) ② 5名 (チャミット氏他2名) ③ 会長1名、理事小林裕幸
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 ① 農園管理者と臨時雇用 4名 ② 上記クラブ会員70名 ③ 会長大岩、理事小林裕幸
(カ)	費用 527,513 円 ① 468,821円 内訳) 労賃 310,715円<チャンダヤ氏12ヶ月214,286 円+ヤシ園管理者I.P.ジャヤセーナ氏4か月42,857円+臨時雇用53,572円 (カシューナッツ農園下刈り2人10日間 21,429円+ヤシ農園下刈り2人15日間、32,143円 > ヤシ農園休憩小屋建設 50,000円、肥料 21,429円、電気代34,286 円、交通費42,857円 通信費 2,360円、カシューナッツ殻取り費用 3,309円、カシューナッツ郵送費 3,865円 ② 51,332円 内訳) 草刈り機 15,761円 簡易ふるい機 33,211円 通信費 2,360円 ③ 7,360円 内訳) 交通費 3,000円 通信費 2,360円 諸経費2,000円
(キ)	収益 98,305 円 ① 98,305円 (内訳) カシューナッツ販売 55,589円、新規オーナー1名 5,000円、ヤシの実販売(120個) 3,430円 (4,800ルピー)、換金作物販売34,286円 ② 0円 ③ 0円

ウ> スリランカの子どもを対象とした教育振興事業

(ア)	事業内容
①	ワラカーポラ郡の幼稚園における汚水処理付きトイレの建設 『東南アジアに学校を造る会』(和歌山県新宮市延命寺と宝珠寺)から頂いた20万円の寄付金を基に、ケーゴール県ワラカーポラ郡キタランガムワ村のシャイラタラー・ラーマ幼稚園において汚水処理付きトイレを建設し、寄贈した。この事業は幼児教育支援の一環であるが、同時に環境保全の活動であり、幼児の環境教育に資するものである。
②	タミルとシンハラの小学校に対するコピー機の購入と贈呈 スリランカの教育制度は5-6-2制で、小学校は5年生までである。大中都市は別として、地方の小学校は規模も小さく、州や国からの財政援助は少なく、設備や施設を整えるお金がない。我々が活動しているワラカーポラ郡アルピティヤ村の近隣には、タミル小学校が3校、シンハラ小学校が2校あるが、どの学校にもコピー機がない。教材を印刷するために、先生方は町のコピー屋へ行かざるを得ない。その度、町へ行くのも困難であり、結局、手書きで教材を作っているという現状である。そこで協会の会費と寄付金でコピー機を4月に買い、チャミットさんを通して手渡した。コピー機は今のところ町に一番近いシンハラのカラピタマダ小学校に置いてある。当該小学校において9月に贈呈式が行われ、協会主催のスリランカ親善旅行の方々に参加していただいた。将来、上述の5つの小学校の教員が行きやすい場所に「タミル・シンハラ教育センター」を建て、そこにコピー機を設置したいと考えている。このために来年度寄付金を募る予定である。
③	シンハラのカラピタマダ大学校へのバレーボール用品の贈呈 協会のスポーツ教育部長である茂木一美がバレーボール社会人チームの監督をしていた時に親交のあった実業団チーム及び高校チームの友人からバレーボール用品を寄贈してもらい、カラピタマダ大学校のバレーボール部に贈呈した。
④	タミル&シンハラ小学校児童を対象とした合同環境教育授業 デヒオービタ タミル学校とカラピタマダ シンハラ学校の生徒それぞれ10名計20名と教師それぞれ2名計4名そして保護者5名をチャミット宅に呼んで、ダディガマ農業指導員のインドゥマーリー・ティラカラトナ氏を講師として招き、堆肥生産とキノコ栽培についての授業を行った。S.A ウィジェーラトナム氏にタミル語の通訳をお願いした。インドゥマーリー・ティラカラトナ氏は無償で授業をしてくれた。デヒオービタのタミル学校は人数はごく少数であるが、アルピティヤ村周辺タミル小学生が進学する中学・高等学校である。
⑤	日本語を学習している生徒・学生への日本語辞典類及び電子辞書の贈呈及び日本語教師への教材の贈呈 HPを見て寄贈して下さった国語・漢和辞典、英和・和英辞典及び電子辞書を日本語を学ぶ生徒・学生たちに贈呈した。スリランカに輸送するのは費用の関係で年度内に1回であり、今年度は平成30年9月に行った。これ以降に寄贈された辞書類については来年度に輸送し贈呈する。一方、日本語教育の教材についてはサイトで購入し、スリランカ在住のシンハラ人日本語教師に郵送し贈呈した。なお、辞典類及び電子辞書を寄贈して下さったのは次の方々である。紙面を借りて御礼申し上げます。福田千鶴子さん、鴨川典子さん、佐賀県神崎市の内田さん、匿名希望の中学・高等学校、大阪府池田市 宣真高等学校

(イ)	実施日時 ①平成30年5月～12月 ②平成30年4月～9月 ③平成30年9月 ④ 平成31年3月24日午前8時～午後4時 ⑤平成30年4月～平成31年3月
(ウ)	実施場所 ①～④ キャーガッラ県ワラカーポラ郡 ⑤ガンパハ県ガンパハ市真珠日本語教育センター、ワラカーポラ郡アルピティヤ村スバ・ランカ日本語研修センター及びサバラガムワ大学
(エ)	従事者の人数 ① チャミット氏、ジャヤマガ青年農業者会役員3名 ② 会長大岩、チャミット氏、インドラナンダ師 ③ 茂木一美、チャミット氏 ④ チャミット氏、ジャヤマガ青年農業者クラブ役員3名 ⑤ マーダワ氏、チャミット氏、インドラナンダ師、大岩
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 ① 幼稚園児・仏教日曜学校生徒215名 ② インド・タミル及びシンハラ小学生115名 教師12名、

	③ バレーボールクラブの生徒 約60名 指導者2名 ④ タミル児童40名 シンハラ児童70名 ⑤ 上記実施場所の生徒及び学生23名
(カ)	費用 376,020円
	① 200,000円 (内訳) 労賃 60,000円 建設資材 124,521円 輸送費11,071円 通信費 4,408円 ② 104,360円 (内訳) コピー機 (キョーセラTA2200) 72,857円 税金15% 10,929円 トナー (キョーセラTK4109) 7,500円 輸送費 10,714円 通信費 2,360円 ③ 2,360円 (内訳) 通信費 2,360円 ④ 33,388円 (内訳) 謝礼・タミル語通訳 8,568円 (1071円×8時間) 筆記用具1,429円 参加者飲食代 (午前午後の紅茶と昼食1人375円×32人) 11,424円 参加教師4名へのお土産 (魔法瓶4本) 1036円 交通費 (参加生徒、教師、両親、講師、通訳者の移動のために、1日小型バスを貸し切る) 8,571円、通信費 2,360円 ⑤ 38,272円 (内訳) 日本語教育教材 7,202円、輸送費 25,000円、郵送費 3,710円、通信費 2,360円
(キ)	収益 0円
	①～⑤ 0円

エ> 日本とスリランカ両国の相互交流推進事業およびボランティア支援事業

(ア)	事業内容 「シンハラ語を学んでスリランカに行こう」というボランティア親善旅行を企画し、ワラカーポラ郡アルピティヤ村のジャヤマガ青年農業者クラブに草刈り機やふるい機を贈呈し、同村周辺のゴム園インドタミルの小学校とシンハラのカラピタマダ小学校にコピー機や文房具を贈呈し、同村のスバ・ランカ日本語研修センターの生徒、及びガンパハの真珠日本語センターの生徒と交流し、文房具を寄贈し、日本舞踊、民謡、書道、盆踊りなどの日本文化を紹介した。
(イ)	実施日時 平成30年9月3日～12日
(ウ)	実施場所 アヌラダプラ→シーギリヤ→キャンディ→ノリタケ見学→ニッタンプワ→ワラカーポラ郡アルピティヤ村 (タミル・シンハラ小学校) →ガンパハ真珠日本語センター→マウントラベニヤ→コロンボ
(エ)	従事者の人数 1名 (副会長 新海啓一)
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 ツアー参加者20名
(カ)	費用 7,360円 (内訳) 交通費 3,000円、通信費 2,360円、諸経費 2,000円
(キ)	収益 0円

オ> スリランカの物産の紹介と普及事業

(ア)	事業内容 紅茶とカシューナッツの配布(随時) スリランカマックウッド社の紅茶とスバ・ランカ農園のカシューナッツを希望者に随時配布した。
(イ)	実施日時 平成30年4月～平成31年3月
(ウ)	実施場所 東海3県、関東、北海道
(エ)	従事者の人数 2名(会長大岩ほか理事1名)
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 会員及びカシューナッツ・オーナー約100名
(カ)	費用 19,124円 (内訳) 紅茶購入費 11,014円、郵送費 5,750円、通信費 2,360円
(キ)	収益 25,500円 (内訳) 紅茶随時販売 25,500円

カ> スリランカを紹介する広報啓発事業

(ア)	事業内容 ① シンハラ語 入門・初級及び初級・中級クラスを開講した。 ② スバ・ランカ協会10周年記念イベントの一環としてカレー教室を開催した。
(イ)	実施日時 ① 平成30年4月～11月(週2回 計16回) 平成30年12月～平成31年3月 (週1回 計4回) ② 平成30年5月13日
(ウ)	実施場所 ①/② 名古屋西生涯学習センター
(エ)	従事者の人数 ① 1名(副会長 新海啓一) ② 7名<講師 プリヤンティカさん、会長大岩、副会長新海、理事4名 (小林、高野、廣間、岸)>
(オ)	受益対象者の範囲及び人数 ① 受講生12名 ② 参加者30名
(カ)	費用 85,700円 ① 56,000円 (内訳) 施設使用料 24,000円、教材印刷代金 30,000円、諸経費 2,000円 ② 29,700円 (内訳) 施設使用料 2,400円、材料費17,300円、謝礼 10,000円
(キ)	収益 101,000円 ① 56,000円 (内訳) 受講料 56,000円 ② 45,000円 (内訳) 教室参加費 45,000円

3 会議の開催に関する事項

1) 総会

ア 通常総会 平成29年度

(ア) 開催日時及び場所

平成30年5月13日 15:00~16:30 名古屋市西生涯学習センター 集会室

(イ) 議題

- ① 平成29年度事業報告書の承認について
- ② 平成29年度活動計算の承認について
- ③ 平成30年度事業計画について
- ④ 平成30年度活動予算について
- ⑤ その他

イ 通常総会 平成30年度

(ア) 開催日時及び場所

平成31年3月30日 14:30~16:30 名古屋市中生涯学習センター 集会室

(イ) 議題

- ① 平成30年度事業報告書の承認について
- ② 平成30年度活動計算の承認について
- ③ 2019年度事業計画について
- ④ 2019年度活動予算について
- ⑤ 役員の内任について
- ⑥ その他

2) 理事会

ア 第1回理事会

(ア) 開催日時及び場所

平成30年5月13日 13:45~14:30 名古屋市西生涯学習センター 集会室

(イ) 議題

- ① 平成29年度通常総会の議題について
- ② その他

第2回理事会

(ア) 開催日時及び場所

平成30年11月18日 14:00~16:30 金山駅サイゼリア

(イ) 議題

- ① 会費と寄付について
- ② スバ・ランカ農園の存続について
報告
- ③ 平成31年度申請事業について

第3回理事会

(ア) 開催日時及び場所

平成31年3月30日 13:00~14:25 名古屋市中生涯学習センター 集会室

(イ) 議題

- ① 平成30年度通常総会の議題について
- ② 会費と寄付について
- ③ スバ・ランカ農園の存続について
- ④ その他